

一次元無秩序のアンダーソンモデル ( $n, n$  ホッピング  $V$ , サイトエネルギー  $\{\epsilon_n\}$ ;  $-W/2 \leq \epsilon_n \leq W/2$ ) の動的電気伝導度  $\sigma(\omega)$  を MacKinnon<sup>(1)</sup> の方法を用いて,  $10^6$  サイトまでの計算機実験によって求めた。  $\text{Re} \sigma(\omega)$  は久保の公式から,  $N$  サイト系に対して

$$\text{Re} \sigma^{(N)}(\omega) = \frac{1}{\omega} \int_{E_F - \omega}^{E_F} dE \text{Re} \sigma_E^{(N)}(\omega), \quad \text{Re} \sigma_E^{(N)}(\omega) = \frac{2e^2 \hbar}{\pi N a} \text{Tr} [v \text{Im} G_T^{(N)}(E + \omega + i\tau) v \text{Im} G_T^{(N)}(E + i\tau)]$$

ここで  $v = \frac{1}{\hbar} [H, x]$  は速度演算子,  $x = \sum_{n=1}^N x_n |n\rangle \langle n|$  は位置演算子,  $x_n = na$ ,  $a$  は格子定数であり,  $G_T^{(N)}(z) = (z - H^{(N)})^{-1}$  である。有限系を扱うために有限なエネルギー  $E$  の虚数部  $\tau$  を導入しなければならない。  $\sigma_E^{(N)}(\omega)$  は  $x$  表示に基づきのように書くことができる。

$$\sigma_E^{(N)}(\omega) = \frac{e^2}{2\pi \hbar N a} \sum_{n=1}^N \sum_{m=1}^N (x_n - x_m)^2 [\omega^2 \langle n | G_{\omega}^{(N)} | m \rangle \langle m | G_T^{(N)} | n \rangle - (\omega + 2i\tau)^2 \langle n | G_{\omega}^{(N)} | m \rangle \langle m | G_T^{(N)*} | n \rangle]$$

ここで  $G_{\omega}^{(N)} = G^{(N)}(E + \omega + i\tau)$ ,  $G_T^{(N)} = G^{(N)}(E + i\tau)$  である。MacKinnon の方法を動的な場合に拡張して,  $G_T^{(N)}(z)$  の漸化式から  $\sigma_E^{(N)}(\omega)$  の漸化式を求め,  $N=1$  から出発して非常に大きな系の  $\sigma_E^{(N)}(\omega)$  を求めることが可能である。我々は  $\sigma_E^{(N)}(\omega)$  を  $E = E_F = 0$  ( $E_F$  はフェルミエネルギー) の場合に  $N=10^6$ , 20 samples について計算した。計算の結果,  $\sigma_E^{(N)}(\omega)$  の  $E$  依存性は小さいので  $\sigma^{(N)}(\omega) \approx \sigma_E^{(N)}(\omega)$  ( $E = E_F$ ) とした。  $W/V=1$  と  $W/V=5$  の場合についての結果をそれぞれ図1と図2に示した。横軸は  $\tau_0$  (Born近似で緩和時間;  $\tau_0 = 12 \hbar V / W^2$ ) であり, 縦軸は  $\sigma = (e^2 / \pi \hbar) 2\nu_F \tau_0$  でスケールした。無秩序の度合の小さい領域 ( $E_F \tau_0 \gg 1$ ) で有効な Berezinskii<sup>(2)</sup> の厳密解 (図の実線<sup>(3)</sup>, 波線は Drude の理論) と比較して,  $W/V=1$  の場合は  $\omega$  の広い範囲でよい一致を示している。  $W/V=5$  ( $E_F \tau_0 \sim 1$ ;  $E_F = 2V$ ) の場合でもバンド端の効果が現れている他は, Berezinskii の解と計算機実験とは非常によく一致している。

- (1) A. MacKinnon: J. Phys. C13 (1980) L1031
- (2) V. L. Berezinskii: Sov. Phys. JETP 38 (1974) 620
- (3) A. A. Grogolin and V. I. Melnikov: Phys. Stat. sol. (b) 88 (1978) 377

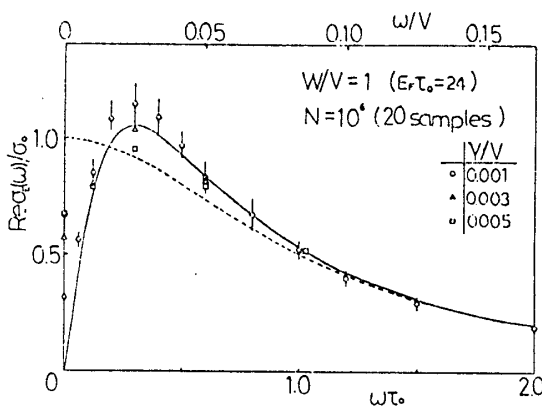


図1

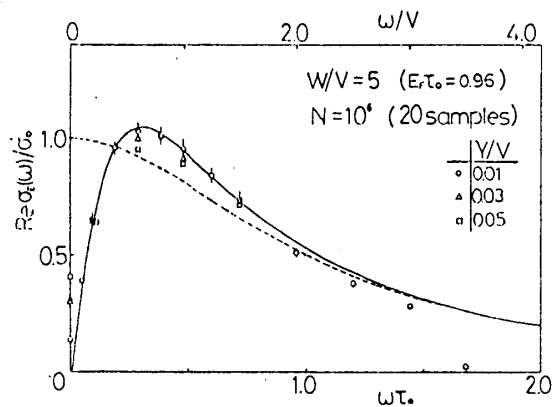


図2